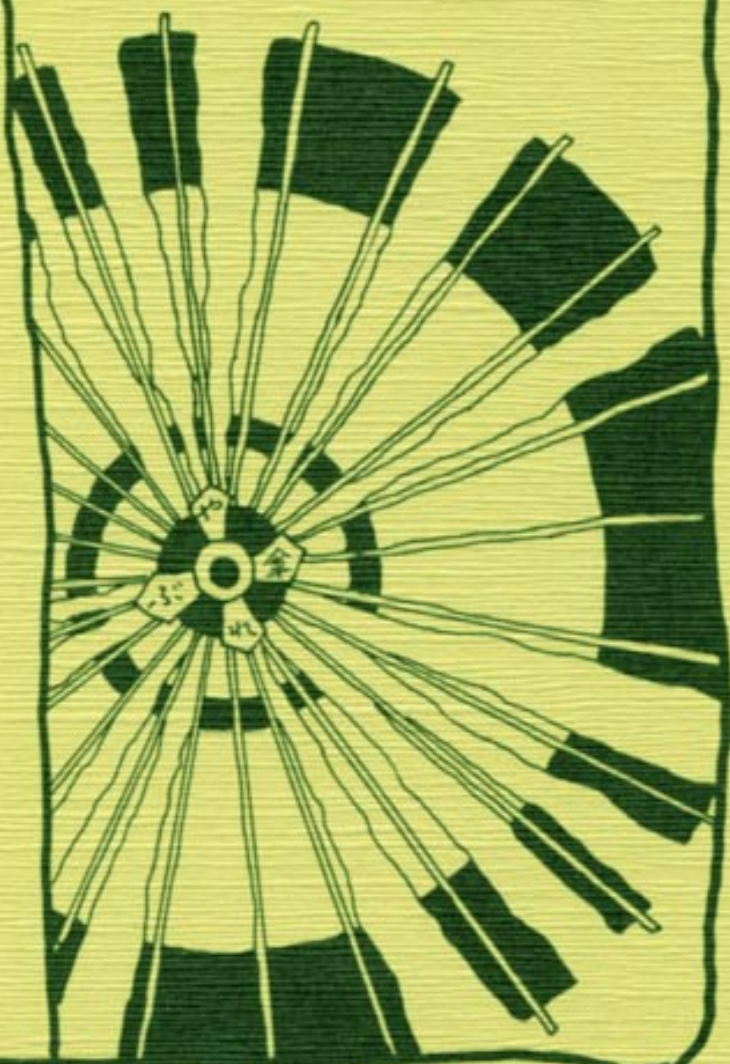


やぶれ傘



四十七号

二〇〇九年四月

横付けに舟の着きくる犬ふぐり	根橋宏次
冬晴れを四方に比企行く寺巡り	大島英昭
初詣おびんづるさま撫でてより	廣瀬雅男
菜の花の水平線の高さまで	きくちきみえ
練習機冬夕焼けを低く来る	藤井美晴
名残雪去来の墓に積りけり	天野美登里
賓頭盧の御目拭ひけり梅三分	丑久保勲
初読みにしたるは虚子の「誹諧師」	瀬島洒望
渡し船春のひかりの中を発ち	白石正躬
冬帽子合せ鏡の中に買ふ	安藤久美子
昼時のめし屋に並ぶ春隣	國保八江
土塊の田のでこぼこを春の鳥	渡邊孝彦
赤坂の虎屋であそぶ投げ扇	有賀昌子
日差しよりぬくもり消えて枇杷の花	松村光典
一碗の望郷のいろ芹香る	秋葉貞子

抄 集 句 選 夫 紀 傘 大 崎 ぶ れ や

盆梅の身丈に余る花盛り	岩藤礼子
春浅しうがひ葉の苦き味	岡田香緒里
赤べこの首の揺らぎや初明り	奥田温子
ポン菓子の記事読む朝や梅の花	菊地葉子
神前の供米に群るる寒雀	久世孝雄
葉隠れのレモン一箇や春隣	忽那みさ子
綾取りを子とおさらひの小正月	齋藤朋子
探梅や今日の歩数は九千歩	鈴枝美智子
麦の芽や関東平野山淡く	高柳正幸
白鷺の片足仕舞ふ寒さかな	武石京子
焼酎をジョニシロと呼び年酒酌む	武田紀久
日の当るところに結ぶ初みくじ	畑山フミ子
春光や木々の名札のそれぞれに	平岡かつを
庭隅に釜めしの釜実千両	松本善一
寒鮎の寄り添ふ岩のひとつと	松本正生

尾根道

大崎紀夫

ひと枝は板戸に触れて団子花
麦の芽に上州の風吹きわたる
チンドン屋一行日向ぼつこかな
江戸前の月のぼりけり小正月
闘鶏の脚の包帯霜の朝

勢子のこゑ餅となれり兎狩り
炭竈のかたへ搔き出し棒二本
寒晴れの空は筑波や秩父まで
校舎へとつむじ風ゆく春隣
海辺ゆく列車に日脚伸びにけり
札所へと春の尾根道くだりけり
紅梅やふふめば鉄かな気けある手水

「俳諧師」

瀬島洒望

初読みにしたるは虚子の「俳諧師」
声の出る孫の絵本や松の内
浅漬けの沢庵の塩辛さかな
柿の木のある坂道や寒早
畑隅に積まれし土囊寒鴉
水仙や母校は今も男子校
春近し孫の絵本の醤油染み
レプリカの戦車砂場に春隣
豆腐屋の切らずの桶や梅の花
料峭の子規庵隅に万年青鉢

渡し船

白石正躬

木によりてしばらく日向ぼっこかな
大根をひよいと引き抜きくれにけり
松飾る足利城址風の中
山寺やほつたらかしに寒椿
洗ひ場の水嵩のます二月かな
見下ろせる山家に日脚伸びにけり
猪を撃つ銃の音春隣
暖かなお湿りとなりもぐら塚
ひと雨のすぎて川辺の春らしく
渡し船春のひかりの中を発ち

合 せ 鏡

安藤久美子

冬帽子合せ鏡の中に買ふ
新築の礎石に雪の堆し
笹藪へまた投げてみる雪礫
紅梅のさんりんごりんしちりんと
昔歌自づと口に梅の下
紅梅に光る雫や雨あがる
散る時は風の心に梅の花
杉箬に春の魚の煮付けなど
ゆるやかな風のきてをり春の鴨
鳥のこゑ乙女椿の揺るるたび

春 隣

國保八江

仏壇のなかまで届く初明り
襦宜ひとり焚火の番や松の内
振つてみて土鈴買ひたる女正月
側溝を流るる音や寒の雨
寒晴れの篋に風起りけり
ひとしきり木魚の音や冬安居
四つ辻を日のある方に梅探る
昼時のめし屋に並ぶ春隣
寒明けのトースト焼ける匂ひかな
鯉跳ねて二月の果つる日なりけり

春の鳥

渡邊孝彦

初鴉明けの箱根の山霽るる
初神楽杉の木立を日の漏れて
城歩きいつの程にか探梅に
寒の雨家並の雨戸閉ぢしまま
流されて鴛鴦の行き着く泊まり岩
湧き水のせせらぎとなる野水仙
やや焦げ目つく程に焼くまながつお鯧
鶏糞をまく畑仕事春浅し
掌てに落ちし春の霰の早や消ゆる
土塊の田のでこぼこを春の鳥

投げ扇

有賀昌子

冬の磴のぼりあをぞら目の前に
輪袈裟かけをさな子除夜の鐘を撞く
鐘の音を耳に残して年ゆけり
獅子舞やときにぴたぴた動く耳
初詣手水の杓の柄のあをし
赤坂の虎屋であそぶ投げ扇
雨の粒膨れ蠟梅重たげな
馬頭印結ぶ石仏露の臺
投入れの啓翁ざくら咲きにけり
春灯お寶頭盧さまふと揺るる

枇杷の花

松村光典

日差しよりぬくもり消えて枇杷の花
縁えだじある人みな恋し冬の月
冬萌えの枝ふくふくと散歩道
大寒を缶コーヒーに温もれり
焼き芋のまづは匂ひに癒さるる
見慣れたる街を北風変へにけり
西風の冷たき道のカフェに入る
春立つや聴こえぬ耳を澄ましみる
春愁ひもよおす空の重さかな
啓蟄や地下の酒場にたむろする

青 碓^{うす} 甘 少 孫 朝
 空 井^い 酒 林 を 風
 へ 川^{がわ} を 寺 乗 呂
 の す ダ せ に
 煙 の す ル 飛 体
 か 速 り マ 行 ま
 雲 き て 小 機 か
 流 休 脇 の せ
 か れ む に 空 師
 初 や 初 初 へ 走
 浅 初 詣 参 消 か
 間 烏 で り え な

湯本実

岸 春 家 春 畝 流 千
 頭 祭 中 浅 作 木 恵
 に り を き り を 子
 次 山 焼 上 説 拾 碑
 の 車 路 総 か ひ 手
 波 昔 の 香 の た 初 読
 く の 疵 の 香 り 焚 む
 る の り か 敬 鋤 始 初
 春 こ な 忌 始 火 明
 嵐 り な 忌 始 火 明

山岸甲一

◇5～6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	大島英昭
	11日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	大島英昭
	12日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	12日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	20日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	22日(金)	PM3:00	WEP大崎教室	WEP俳句教室	WEP編集室
	23日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	29日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
6月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	大島英昭
	2日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	大島英昭
	17日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	林芙美子記念館	丑久保勲
	26日(金)	PM3:00	WEP大崎教室	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(日)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) 6月21日(日)の吟行。集合は10時。西武新宿線中井駅改札口(高田馬場から2つ目)。吟行地:新宿下落合・林芙美子記念館から薬王院。
句会場:滝野川会館。(JR目白駅から駒込駅へ移動・徒歩10分)。

◎ 連絡先

瀬島孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ